

# 令和6年度 大淀中学校学校関係者評価報告書

大阪市立大淀中学校 学校協議会

## 1 総括についての評価

令和6年度の「運営に関する計画・自己評価（最終評価）」の3つの最重要目標について  
【安全・安心な教育の推進】

①「年度末の校内調査における『学校に行くのは楽しいと思いますか』に対して、肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。」について年度末の校内調査（生徒アンケート）で「学校に行くのは楽しいと思いますか」に肯定的な「思う」とした生徒の割合は87.0%だった。目標値からは7%上回ったが、R5年度の校内調査（88%）より1%下回っている。将来に夢や希望を抱けるための行事等の工夫が必要である。

②「年度末の校内調査における『いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか』に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を84%以上にする。』について年度末の校内調査（生徒アンケート）で「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は81.8%だった。目標より2.2%下回った。校内調査（生徒アンケート）で「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に肯定的な「思う」「概ね思う」と回答した生徒の割合は97.2%と、昨年度より6.8%上回っている。生徒会を中心に、いじめについての取り組みが、徐々に成果として表れてきているが、満足できないのが現状である。否定的に回答した生徒が2.8%（7人）いることを踏まえ次年度は意識を改善させたい。

③「年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。

④年度末の校内調査において、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。」2項目について「年度末の校内調査（統計）で不登校生徒の在籍比率は10.9%と、前年度より1.4%上回ってしまっているが、④年度末の校内調査（統計）の「前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。」においては、前年度26人いた不登校生のうち10人が改善し、38%と高い割合で改善が見られた。校内でのE.R.の取り組みや、S.S.W.等の外部人材とのつながりや支援を進めてきた結果が表れている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

①「年度末の校内調査における『学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか』に対して、最も肯定的な『思う』と回答する生徒の割合を32%以上にする。」について年度末の校内調査（生徒アンケート）で「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」と、最も肯定的な「思う」と回答した生徒の割合は27.9%だった。昨年度調査結果の26.2%を上回るも、目標の32%以上にするより下回ってはいる。教職員の授業の進め方に変化が表れてきているが、今後も継続して「OYODO STANDARD（授業標準）」を定着させ教職員の授業力の向上に努めていきたい。自分の思いを自信をもって伝え合える子どもを育てる学校となるために、主体的、対話的で深い学びを、さらに推進する必要がある。

②「中学生チャレンジテストにおける国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.03ポイント向上させる。」について中学生チャレンジテスト（3年）における国語および数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較した結果、国語1.08、数学1.25だった。目標のクリアはできなかったが昨年同等の高位で3年生は推移した。1・2年生については結果を待っている。習熟度別少人数授業等の充実や指導法の工夫改善を通して生徒の学力の向上に取り組め、高水準で学力は維持できているが高い目標に難しさを感じている。引き続き学力向上に取り組む。

③「大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）を65%以上に保つ。」について大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合（4技能）は77.7%と目標を大きく上回った。昨年度（73.4%）と比べても、3.3%上回っている。英語力の向上について、これまでの英検の取り組みや、小学校からの積み上げの成果がここで表れている。

④「年度末の校内調査における『運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか』に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を53%以上にする。」について年度末の校内調査(生徒アンケート)で「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」と、最も肯定的な「好き」と回答した生徒の割合は52.4%だった。目標値からは0.6%下回ったが、R5年度の校内調査(47.3%)より5.1%上回っている。わかる授業から出来る。出来ることで楽しい。楽しいから主体的に取り組める授業が保健体育で行えている結果から、向上の要因としてうかがえる。さらに、部活動の充実も要因として考えられ、部活動指導員も今年度9名に拡充し、充実した取り組みができている。

#### 【学びを支える教育環境の充実】

##### I C Tの活用に関する目標

①「授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。」について大阪市の年度末調査(統計)で「授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の70%以上にする。」は23.7%(12月末現在)と目標より大幅に下回った。不登校生徒や欠席生徒の実態と数値計算方式が合致していないことが要因と思われる。しかし、全校生徒の利用率は71.1%で、昨年度(48.5%)と比較して、飛躍的に学習者用端末を活用できている。

②「学習者用端末を活用した家庭学習を週1回実施する。」について学習者用端末を活用した家庭学習は、概ね1週間で一回以上は活用することができている。学習者用端末を毎日持ち帰ることで、いつでも使えるように整備することができた。今後、予備の学習者用端末を活用し、授業配信を継続していく。

##### 教職員の働き方改革に関する目標

③「年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を85%以上にする。」について年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合は83.3%(1月末現在)と、年度末には目標(85%以上)をクリアする見通しである。今年度の、教員の時間外勤務の状況は、累積平均で35時間36分であった。昨年度は42時間50分だったので、7時間14分減らすことができた。さらに改革を進めていきたい。年次有給休暇の取得に対して、ゆとりの時間の確保・活用や、学校閉庁日の拡大を来年度は取組んでいきたい。また、あらゆる人材の確保に努め、教職員がゆとりをもって勤務できる環境を整えていきたい。

## 2 今後の学校運営についての意見

- ・不登校支援に対して、福祉会館等の地域の施設の使用。
- ・学力について、小学校からの積み重ねが重要であることを改めて感じた。
- ・体験学習を通じた、生きる力(キャリア教育)の活動が重要。
- ・区役所の力を借りて、不登校の支援を進める。
- ・保護者アンケートに、保護者が学校の要望に応えられているかの文言を加えるべき。
- ・学校にかかわっているボランティア(元気アップ地域本部)の活動に対して、もっとアピールする必要がある。